

# チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.to/tusin.html>

NPO法人  
チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F  
TEL/FAX: 092-260-3989  
E-mail: jimmu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.  
**108**

## 特集：福島第一原発事故から6年。甲状腺検診の現場

### CONTENTS

いわき放射能市民測定室「たらちね」での甲状腺検診を見学して / 今後のイベントのご案内 / 福島県いわき市の甲状腺検診への随行 / 甲状腺スクリーニング検査に同行して / 支援者のお名前とメッセージ / 事務局からのお知らせ / 編集後記



夕闇が迫るころ、プレスト市の歩行者天国・ソビエト通りのガス灯に火をともし係員

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？  
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座 01770-1-65328  
楽天銀行 ジャス支店（支店番号201）（普）7017104  
住信SBIネット銀行 法人第一支店（支店番号106）（普）1030416



本紙はCMNの活動を支援してくださっている皆さまへお届けしています。また団体ウェブサイトでもPDFファイルにてご覧いただけます。送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

●特集● 福島第一原発事故から6年。甲状腺検診の現場

いわき放射能市民測定室

# 「たらちね」での甲状腺検診を見学して



福島県いわき市、たらちねクリニックでの甲状腺検診。エコー画面を指しながら説明を行う野宗先生

島根大学の野宗義博先生は毎月、関東と福島県で甲状腺検査に参加されていますが、その際に島根大学の医学生や研修医を同行させてあります。私たちはその医学生や研修医の交通費を援助しています。今回は6月24日の福島県いわき市での検診に同行してその様子を見学しました。

今回訪問したたらちねクリニックは認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちねに併設されたクリニックです。そのホームページによると測定室設立は2011年で、2013年から甲状腺検査を行っているということです。そして、今年の5月にクリニックをオープンしたということです。

福島県では県による甲状腺検査が進められており、1巡目（先行検査）の対象者は原発事故時に福島県内に居住していた18歳以下（1992年4月2日～2011年4

月1日生まれ）全員の367,649人、2巡目以降（本格検査）は2012年4月1日生まれまでの381,256人です。先行検査は2011年10月から2014年3月まで、2014年4月から本格検査の2巡目に移り、2016年4月から3巡目が始まっています。対象者は20歳までは2年おきに、20歳以上になると5年おきに検査となっています。受診率は先行検査が82%、2巡目では71%とだんだん低くなっています。特に年齢階級18～21歳では28%と非常に低くなっています。これは、18歳までは学校検診などで受診していても卒業すれば4人に1人しか甲状腺検査に関心がないことが考えられます。年齢が高くなるほど甲状腺がんが発見される可能性が高いということを考えれば、この状況は改善が必要だと思えます。そして、たらちねでの甲状腺検査がその改善に役立つのであれば意味があると思えます。

たらちねのこれまでの甲状腺検査の結果はホームページに掲載されていますが、そこで確認できるのは

2013年度分だけです。この年は3186人の検査を行っていますが、その後の人数を知ることができません。今回の検査は3歳から64歳までの男性6名、女性12名の合計18名で、人数が少ないように感じました。検診の案内を出しても受診する人が集まらなくなってきたのではないのでしょうか。今回、数名の受診者に意見を聞いたのですが、たまたまの検査を受けた理由としては「県から検査の案内がなかった」という答えが複数ありました。ただ、県の検査を受けたことがないかを聞くとそういうわけではなく、県の検査は受けられなくてもこの検査も受けているということのようです。つまり、検査を受ける人は何度でも受けるけれども、受けない人は全く受けないという状況のようです。今回は未就学児・小学生の子供とその親という家族が多かったように思います。

検診結果\*は、A1が5名、A2が12名、Bが1名です。多くの子どもたちにのう胞はあるようですが、問題となる大きさではないようです。検診を受ける事で安心できる説明が受けられるのはいいことです。受診者の不安を解消するというのがこの検診の意義でもあります。

私たちの支援は次世代の専門家を育てていくという事に重きを置いているため、医学生・研修医が実際に検診を経験する機会があるという事はそれなりの意味があると思います。今後、甲状腺がん

が増え続けるかどうかはわかりませんが、我々の支援した学生の中から新しい専門家が育つことを期待したいです。

野宗先生は福島他に関東でも常総生協での検診を実施しており、こちらでは希望者も多く福島とは状況が違うようです。時機を見てこちらの検診も見学して報告したいと思います。

(CMN理事 河上雅夫)

#### \*甲状腺検査の判定基準

- A1：甲状腺に結節（しこり）やのう胞を認められなかったもの
- A2：5.0mm以下の結節（しこり）や20.0mm以下ののう胞が見つかったもの
- B：5.1mm以上の結節（しこり）や20.1mm以上ののう胞が見つかったもの
- C：直ちに二次検査を要するもの

## 今後のイベントのご案内

# 福

岡市内で開催される下記のイベントにブースを出展予定です。

活動紹介やベラルーシの福祉工房「のぞみ21」商品、フェアトレード商品などの販売を行います。どちらも入場無料です。お時間のある方は、ぜひ遊びにいらしてください。

### ●ふくおかできるマーケット2017

2017年10月22日（日）10時～16時

天神中央公園（福岡市中央区天神、アクロス福岡南側）

### ●第29回和白干潟まつり

2017年11月19日（日）11時～15時15分

和白干潟・海の広場（福岡市東区和白4丁目、JR和白駅・西鉄和白駅より徒歩5分）

※雨天の場合は、会場が和白3・4区公民館に変更します。



## ● 寄稿 ● これからの医療を担う若者が被災地で見たこと、感じたこと

島根大学・野宗義博先生の福島、関東での甲状腺検診に同行された菅さん、一條さんに報告を寄せていただきました。

# 福島県いわき市の甲状腺検診への随行

島根大学医学部附属病院 初期臨床研修医1年目 菅 里加



大田市立病院の野宗義博先生に、今回のいわき市での検診の機会についてご紹介いただき、随行させてもらうことになりました。この度は、福島県いわき市のたらちねクリニックの甲状腺検診に参加させていただきました。

私は、大学4年生の時に野宗先生や諸先生方に随行する形で約2週間のカザフスタンのセメイでの国際研修に参加してもらい、核実験の影響についての研究発表の拜聴、核関連施設の見学、oncology centerでの甲状腺がん手術の見学などの機会をいただき、外国での事例について理解を深めることで日本の福島県の震災時の原子力発電所事故の影響についても考える機会がありました。しかし私は、実際に福島県を訪れたことはなく、ニュース番組や新聞などで色々な情報を得

ながらも、震災後の状況について自分の足を使って知ろうとする行動を起せていませんでした。

そのため今回は、現地の様子をしっかりと見て考えることのできる貴重な機会だと考え、随行させていただくことに決めました。

福島県では震災の翌年、今から5年前から、放射性ヨウ素の内部被曝による影響がないかどうかを見るために甲状腺検診を行われているということをお聞きしました。

今回は、認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちねが主催するたらちねクリニックでの甲状腺検診でした。検診を受けに来ていた人は3歳から50歳代くらいの人までの男女で、親子が多かったように思います。震災当時は産まれていなかった子供

達も、影響を心配されて受診していました。私は野宗先生がエコーを当てながら説明をしているのを見学し、その後実際にエコーをさせてもらいました。

甲状腺検診の目的としてスクリーニングがあるけれど、親が不安に思っている気持ちを聞くことも大切な役割なのだと思います。小さな良性の嚢(のう)胞や結節であっても、このまま放っておいて大丈夫なのかと心配になる人もいらっしゃいます。子供の場合は、良性の嚢胞に関しては特に学童期〜中高生の時に成長の過程で出てきていて、成長と共に消失する傾向があるということですが、それをエコーを当てて位置関係を説明しながら大きさを測り、良性ならば「大丈夫ですよ」と言うことは、希望して検



右)たらちね放射能測定室の設備

左)甲状腺のエコー検査を行う野宗先生。後方が菅先生



診を受けに来ている親や、心配をされている子供にとつて何よりの安心材料になると思います。子供も、何もなく大丈夫だと言うと嬉しそうな表情になっていたように思います。

エコーの検査が比較的短時間で、また会話が交わされながら和やかな雰囲気の中で行われていたのも印象的でした。やはり、長時間暗い部屋の中で黙って検査を行われると緊張しますし、検査で何を見ているのか分からないまま検査が終わっても安心には繋

# 甲状腺スクリーニング検査に同行して

島根大学医学部医学科6年 一條 友孝

## 1) 概要

平成29年7月8日、9日に栃木県益子市で関東子ども健康調査支援基金が主催する、主に東日本大震災にて放射線の影響を受けたと考えられる小児を対象に行う甲状腺スクリーニング検査に同行した。両日の検診受診者総数は96名であった。検診は超音波診断装置を用いて、受診者の甲状腺を確認し(囊(のう)胞や結節など

## 2) はじめに

甲状腺スクリーニング検査は、先の東日本



大震災後に子どもたちの健康状態を知りたいという地域の親たちの願いを受け設立された基金により、2013年9月から市民主体で行われている。検診は「甲状腺超音波診断ガイドブック 改訂第2版」や「福島判定」を

参考に、超音波により受診者の甲状腺に囊胞、結節などの有無や大きさ、その個数、性状などを確認し、経過観察や精密検査の必要性を判断する。受診者は東日本大震災当時に0歳だった子どもから15歳くらいまでの希望者が中心であった。野宗先生は基金の検診の協力医の一人として参加されている。益子市での検査受診者総数は両日あわせて96名あった。私は検診の見学と、野宗先生の指導のもと受診者の甲状腺の超音波検査を数例施行させて頂いた。

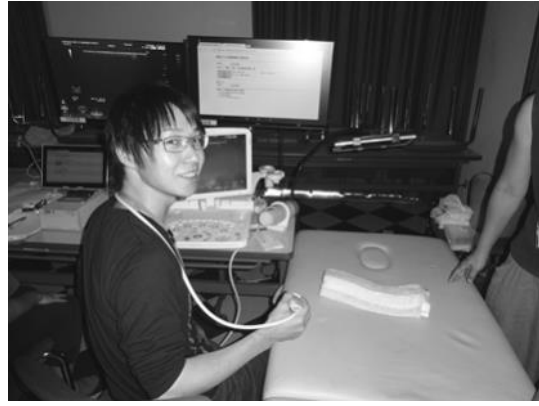
らないだろうと思います。野宗先生はその都度分かりやすい説明を加えながら、患者さんの理解を確かめて検査を進めていらつやつて、満足度も高く有効な検査になると思いました。今回見学した中で、2センチ以上の結節が見つかったり悪性を思わせる所見が認められたりすることはありませんでしたが、そういった時にどのように配慮をし、より理解してもらいやすい説明をするのか、ということとは、インフォームドコンセントの観点から知りたいと思いました。クリニックを訪れる方や、検診を行う先生方の話を聞かせてもらおうと、県で行われた検診ではエコー写真ももらえなかったり、十分な説明がなかったりすることもあるということでした。よく理解できない状態で判定結果だけ受け取っても、漠然とした不安が心のどこかに残るのではないのでしょうか。また、県民健康調査の一環として福島県の原発事故が起きた2011年3月11日時点で18歳以下だった福島県民(子供達)を対象にした甲状腺検査が行われていたそうです。20歳ま

で2年毎、それ以降は5年毎に行われているということですが、この2年という期間も心配する親にとっては長いかもしれません。

短期的なスパンで継続的に検査し、子供の健康状態を見ていきたいという親も多いようで、今後も定期的に受診されるのではないかと思います。

エコー検査を行う目的でなくとも気になることがあった時に相談しに立ち寄ることのできる場という意味でも支えとなりうると思います。

今回のような検診は定期的に様々な場所で行われています。今回の場所は福島県いわき市でしたが、震災後6年経った現在も違った環境で異なる不安、ストレスを抱える親と子供達がいるという状況、そして、そういった人達の心の拠り所になる場があるということを知り、私自身もこれから経験を積んで、医師として貢献できる可能性があることを感じました。実りの多い1日となり、身が引き締まる思いです。



多くの人たちの思いや行動力で支えられている甲状腺検査の現場を肌身で感じた2日間

### 3) 検診の詳細

#### 日程・場所：

平成29年7月8日、9日

栃木県益子市

あぐり館(益子町大沢3535)

#### 対象者：

栃木県芳賀郡および周辺市町村に居住している甲状腺スクリーニング検査希望者。受診者は東日本大震災をきっかけに放射線の影響を受けたと考えられる震災当時0歳から15歳の子どもが中心であった。

#### 方法：

超音波診断装置(HITACHI-ALOKA (Noline))を用いて、受診者の甲状腺内の嚢胞や結節の有無、その大きさや個数について確認し、経過観察、精密検査の必要について判断した。判断基準は「甲状腺超音波診断ガイドブック改訂第2版」<sup>1)</sup>や東日本大震災後に出された甲状腺検査の判定基準「福島判定」<sup>2)</sup>が用いられた。

#### 4) 結果

本検診では受診者に、受診者に所見なし、所見有り、要精密検査の3段階に分けた検査結果と、所見の詳細についても伝えた。精密検査を要する所見は、嚢胞では20ミリより大きいも

の、結節では5ミリより大きいもので悪性所見のあるものであったが、本検診では受診者96名全員がカテゴリーA2判定以下の経過観察であった。

#### 5) 考察

本検診は東日本大震災をきっかけに放射線被害を受け、いわゆるホットスポットにあたる地域に在住している関東地域住民を対象にしたものである。福島県内の住民には甲状腺の超音波検査を行う制度があるが、それ以外の県ではそういった制度が無く、検診を受けたくてもどこで受ければ良いのかわからない保護者が多いといった現状がある。関東子ども健康調査支援基金はそういった行政の制度から漏れてしまった方々のために設立された。検診の目的は甲状腺の異常の有無をスクリーニングすることにより、異常の早期発見を行うとともに、検診結果をデータ化することで未だ予想できない放射線被害の影響について経時的な疫学調査を行うことである。チェルノブイリ原発事故後にみられた小児甲状腺癌の増加などの知見から甲状腺への被曝量と甲状腺癌発

生頻度との間には有意な直線関係が認められた。<sup>3)</sup>しかし、チェルノブイリでのデータはしこりや結節に気づいた者が受診しているデータであるので、福島のように対象年齢の者ほぼ全例を検査しているデータではないため有意差がついたという見方もある。また、福島県では他の地域と比較して甲状腺癌の発症率が高いとの報告が出たこともあるが、検査バイアスもあるためこの点に関しては議論の余地がある。いずれにせよ、重要なことは今回の震災による放射線の影響は未だによくわかっていないということである。それ故に影響を懸念し不安に思っている住民は多く、検診することで子どもに甲状腺癌が無いことが分かれば安心を与えることができ、災害の慢性期の問題の一つであるメンタルケアにつながると思われる。そのためには1年から2年に1回検診を受け、経時的に確認する必要があるだろう。

腫瘍(しゅりゅう)径を2回以上測定できた2014例において、年間腫瘍増大速度を測定した報告によると、平均の腫瘍増大速度は良性群では

+0.2+0.3mm/year)はほぼ不変であったが、悪性群では+1.3+0.5mm/year)と他群と比較して有意な増加がみられたという報告がある。さらに、悪性群13例について経過観察開始時の腫瘍(しゅよう)径群別の平均腫瘍径を検討したところ、10ミリ以下群では+0.4+0.2mm/year, 11-20ミリ群では+1.2+0.6mm/year, 21ミリ以上群では+3.7+1.4mm/yearであり、10ミリ以下群と21ミリ以上群の間には有意差( $p<0.005$ )を認めた。<sup>4)</sup>この結果を加味すれば、4ミリ以下の結節が発見された場合、潜在的に悪性でも次の年は大きくても4.6ミリ前後になっていることが予測される。結節が5ミリ



になればカテゴリBとして細胞診が行われるため、1年ないし2年に一度検診を受ければ十分であると考えられる。

## 6) 感想

この検診の見学では驚かされることが多くあった。検診の協力医以外は皆ボランティアスタッフであり、手伝いを名乗り出た地元の保護者たちも含め、誰も医療従事者がいないとのことであった。その中で医療機器のセッティングから検診結果の記録、受診者の検診内容・結果の説明、前回の検診記録のある受診者の場合は医師にその情報をタイミング良く伝えるなど、医療従事者顔負けの知識<sup>5)</sup>とスムーズな連携で検診は行われていた。スタッフの方々は、この検診を行うにあたり先に同じような活動をしている団体に話を聴いたり、実地で研修に行ったりと様々な機会での知識の習得と訓練を行っていたそうである。また検診を利用したことをきっかけにボランティアスタッフになる方も多く、人々の善意と危機感によりこの検診

は成り立っていると感じた。特に基金のスタッフの方々は、関東各地に毎月のように場合によっては泊まりで検診に向いており、その行動力は素晴らしいものがあると心を打たれた。

検診の利用者は、とりあえず良い機会だから受診してみようとお子さんを連れてくる親御さんから、震災後から放射線による見えない影響に対して不安に思い、子どもに何か不健康なことが起きているのではないかと心配されている親御さんまで様々であったが、真剣にエコー画像を見て野宗先生の説明を聞く保護者の様子を見て、まだまだ不安に思っている方は多く、震災の爪痕というものはそう簡単に消えたりしない、メディアなどで取り上げられていないとつい忘れがちだが復興は終わっていないと感じさせられた。そのような中で、野宗先生が検診を利用して親御さんに対して、お子さんの甲状腺に嚢胞や結節がみられた際にはその説明と共に「嚢胞や結節を正しく理解してくださいね」「安心してください」と繰り返し仰っていたことが印象的であった。

医療従事者としては、こうした機会などで市民の不安の解消や、正しい医学的知識の普及、異常の早期発見の一助となるよう役立てればと思った。

## 参考文献

- 1) 甲状腺超音波診断ガイドブック 改訂第2版  
日本乳癌甲状腺超音波医学会／甲状腺用語診断基準委員会
- 2) 福島県民健康調査「甲状腺検査(先行検査)」結果概要【確定版】  
福島県民健康調査課資料
- 3) 甲状腺がん診療ガイドライン
- 4) 日本における甲状腺腫瘍の頻度と経過 一人間ドックからのデータ  
日本甲状腺学会雑誌Vol. 1 No. 2/Oct. 2010
- 5) 関東子ども健康調査基金 配布パンフレット「甲状腺エコー検診を受けられるみなさんへ」



# たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

- 榎本みつ枝 沖佐和子 金只律子 加茂康子 川崎幸子 川辺  
希和子 久保カヨ子 佐藤和子 渋谷けい子 関根敏子 高橋武  
三 田中京子 田中直子 富田明美 中上礼子 中島乃婦子 中  
村幸枝 野村幸子 引田良子 藤井真弓 松井岩美 村上和代  
めぐみ保育園職員一同 森悠子 吉田久美子 四元洋子
- 〔都道府県別〕
- 【東京都】 1名 【静岡県】 1名 【愛知県】 1名  
【大阪府】 17名 【兵庫県】 28名 【鳥取県】 35名  
【島根県】 78名 【岡山県】 52名 【広島県】 145名  
【山口県】 164名 【愛媛県】 1名 【福岡県】 666名  
【佐賀県】 55名 【長崎県】 84名 【熊本県】 300名  
【大分県】 134名 【宮崎県】 45名 【鹿児島県】 81名
- 計1888名(匿名含む)
- マンスリーサポーターの皆さん
- 相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 植田  
清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子  
大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒  
慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗  
河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大  
輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子

合計	6,541,319円
*活動支援金	6,465,319円
*のぞみ21カンパ	6,000円
*東日本支援カンパ	48,500円
*おまかせカンパ	22,000円
(2017年5月～7月分の寄付内訳)	

- 齊藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗  
佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤  
展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥  
土持秀男・由利子 朱加 綱脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥  
原良子 永尾ゆかり 中上礼子 中島幸代 中島まゆみ 永野  
沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子  
福本勅子 藤田優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智  
恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子  
宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下  
澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真  
志子
- 計121名(匿名含む)

2017年5月1日～7月31日までに募金をしてくださいました方、  
ならびに商品購入を通じて活動を支援してくださいました方です。同  
封の振込用紙の「氏名掲載」欄で、「可」の部分へ〇印をしてくだ  
さった方々をご紹介します。掲載を許可される方はぜひご記  
入をお願いします。なお郵便振替以外からのお振込み等について  
は、許可が確認できなかったものとして掲載しておりません。募金  
者名の掲載をご希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡く  
ださい。

★2017年9月16日(土)より10月1日(月)までペラルーシ医療検診に訪問します。首都のミンスクとブレスト州州都ブレストへ医療関係者やブレスト州立内分泌診療所を訪問したり、ブレスト州立病院で清水一雄先生の「甲状腺内視鏡手術」が行われます。訪問の詳細は、109号、110号にて掲載予定です。

## 皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●いつもありがとうございます。●少しですが何かにお役立て下さいませ。●原発がなくなりますよう祈っています。●いつもありがとうございます。●福島では甲状腺がんの子どもの数が増えていきます。支援体制が心配です。●いつも祈っています。少しですが…。●いつも応援しています。●カフェインレスコーヒー、結構おいしかったです。●核のない世界を祈ります。

## 募集しています

**月々** 300円からの募金で気軽に、「コツコツ  
チエルノブイリ支援をはじめませんか?  
マンスリーサポーターになると毎月26日にご希望の金  
額がゆうちょ銀行総合口座から自動的にCMNへ寄付  
されます。」「毎回振り込みに行く手間を省きたい」  
「無理なく継続的に支援を続けたい」という方にビッ  
タリ。お申込み・お問合せはお気軽に事務局まで!

## お知らせとお願い

**振** 込用紙は毎月同封しています。これは「思い  
立った時にいつでも振り込みできるように、毎  
号同封してほしい」というご要望があったからです。  
決してお振込を強要するものではありません。恐れ入  
りますが、ご不要の方は処分をお願いいたします。  
**住** 所を変更された方は、事務局までお知らせくだ  
さい。なお今後の資料送付がご不要の場合は、  
お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

## 編集後記

夏はお花にとっては厳しい季節です。  
月・水・金曜日に水かけをしている博多駅筑紫口花壇は8  
月末になると、しおれてしまっています。しかし、秋冬に向け  
て植え替えると秋の花は綺麗です。見応えがあり心も落ち  
着きます。皆さんも家の近くや通勤中に見かけたら、少し  
立ち止まって見て下さい。花も喜ぶし、心洗われる1日を  
過ごせることを祈ります。(H.K)